

# 新学習指導要領の理念と カリキュラム・マネジメント

2019(平成31)年1月16日

文部科学省 3階講堂

天笠 茂(千葉大学特任教授)

# 構成

I. 学習指導要領改訂の理念と方策

II. 授業の質的改善をめざす

III. カリキュラム・マネジメントをめぐって

【その1】授業改善と教科横断

【その2】PDCAサイクルの確立

—教育課程を編成し、実施し、評価して改善をはかる—

【その3】人的・物的資源の活用

—「チーム学校」のもとに—

IV. カリキュラム・マネジメントを始める

# **I . 新学習指導要領改訂の 理念と方策**

# 「社会に開かれた教育課程」という理念

① 社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を持ち、教育課程を介してその目標を社会と共有していくこと。

② これからの社会を創り出していく子供たちが、社会や世界に向き合い関わり合い、自らの人生を切り拓いていくために求められる資質・能力とは何かを、教育課程において明確化し育んでいくこと。

③ 教育課程の実施に当たって、地域の人的・物的資源を活用したり、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図ったりし、学校教育を学校内に閉じずに、その目指すところを社会と共有・連携しながら実現させること。

○ 学習指導要領等の枠組みの見直し（「学びの地図」）

○ 「主体的・対話的で深い学び」の実現（「アクティブ・ラーニング」）

○ 「カリキュラム・マネジメント」の実現

## **Ⅱ．授業の質的改善をめざす**

# 学びの過程を質的に高めていく

—「主体的・対話的で深い学び」の提起—

○改訂が重視したのは、**教育の質的転換**であり**授業の質の改善**である。めざすところは、**学習者の主体性・能動性を引き出しつつ、深い学びの実現**である。

○「**知識・技能**」にとどまらない「**思考力・判断力・表現力**」の**育成**を重視する改革であり、**授業改善の求め**。

○育成を目指す**資質・能力**

三つの柱の**バランスの取れた実現**

- (1) 知識及び技能が習得されるようにする。
- (2) 思考力、判断力、表現力等を育成する。
- (3) 学びに向かう力、人間性等を涵養する。

# 理念の実現をはかる車の両輪

## ○理念の実現をはかる車の両輪

<主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)>

+

<カリキュラム・マネジメント>

## ○教科横断的な視点によるカリキュラム・マネジメントの強調

⇒「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざす**授業改善**と密接な関わり

## Ⅲ. カリキュラム・マネジメントをめぐって



# カリキュラム・マネジメントとは

カリキュラム・マネジメントとは、全ての教職員の参加によって、教育課程の編成・実施・診断・評価・改善を通して、学校の特色を創り上げていく営みである。

⇒授業から、学級経営から、校務分掌から、教育課程へのベクトルを生み出す。

⇒教職員全員の参加による、学校の特色づくり

⇒学校教育目標、育成を目指す資質・能力、学校のグランドデザイン等をとらえ、取組の方向性を共有する。

# 学習指導要領総則

## 〈カリキュラム・マネジメント〉

各学校においては、児童（生徒）や学校、地域の実態を適切に把握し、

- ・教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を**教科横断的な視点**で組み立てていくこと、

- ・教育課程の**実施状況を評価してその改善を**図っていくこと、

- ・教育課程の実施に必要な**人的又は物的な体制を確保**するとともにその改善を図っていくこと

などを通して、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくこと（以下「カリキュラム・マネジメント」という。）に努めるものとする。

# カリキュラム・マネジメント：3つの側面

＜中央教育審議会答申＞

- ①各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた教科横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していくこと。
- ②教育内容の質の向上に向けて、子供たちの姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立すること。
- ③教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせること。

# **【その1】授業改善と教科横断**

# 教育課程全体で取り組む課題

- ・国際理解教育
- ・福祉教育
- ・健康教育
- ・保健教育
- ・環境教育
- ・キャリア教育
- ・情報教育
- ・防災・安全教育
- ・食育
- ・ESD
- ・プログラミング教育
- ・租税教育
- ・主権者教育
- ・ものづくり教育
- ・伝統文化
- ・金融教育
- ・街づくり
- ・生命倫理
- ・インクルーシブ教育
- ・法教育
- ・海洋教育
- ・シティズンシップ教育
- ・消費者教育 など



# 言語能力の確実な育成 —横串を刺す—

○言語活動の充実⇒言語能力の確実な育成

○国語科が、中心的役割を担いながら他教科等と連携して言語能力の向上を図るとともに、国語科が育成する資質・能力が各教科等において育成する資質・能力の育成にも資することがカリキュラム・マネジメントの観点からも重要である。

○育成を目指す資質・能力:三つの柱のバランスの取れた実現

- (1)知識及び技能が習得されるようにする。
- (2)思考力、判断力、表現力等を育成する。
- (3)学びに向かう力、人間性等を涵養する。

○21世紀型の資質・能力の育成は、一つの教科等をもって単独で迫れるものではなく、教育課程を構成するすべての教科等が、それぞれの役割を果たし、そして連携と横断を生み出すことによって、成果を得るに至る。

# ＜効果的な単元の開発＞

○「主体的・対話的で深い学び」は、単元や題材のまとまりの中で実現される。

○単元や題材のまとまりの中で、指導内容のつながりを意識しながら重点化していく。

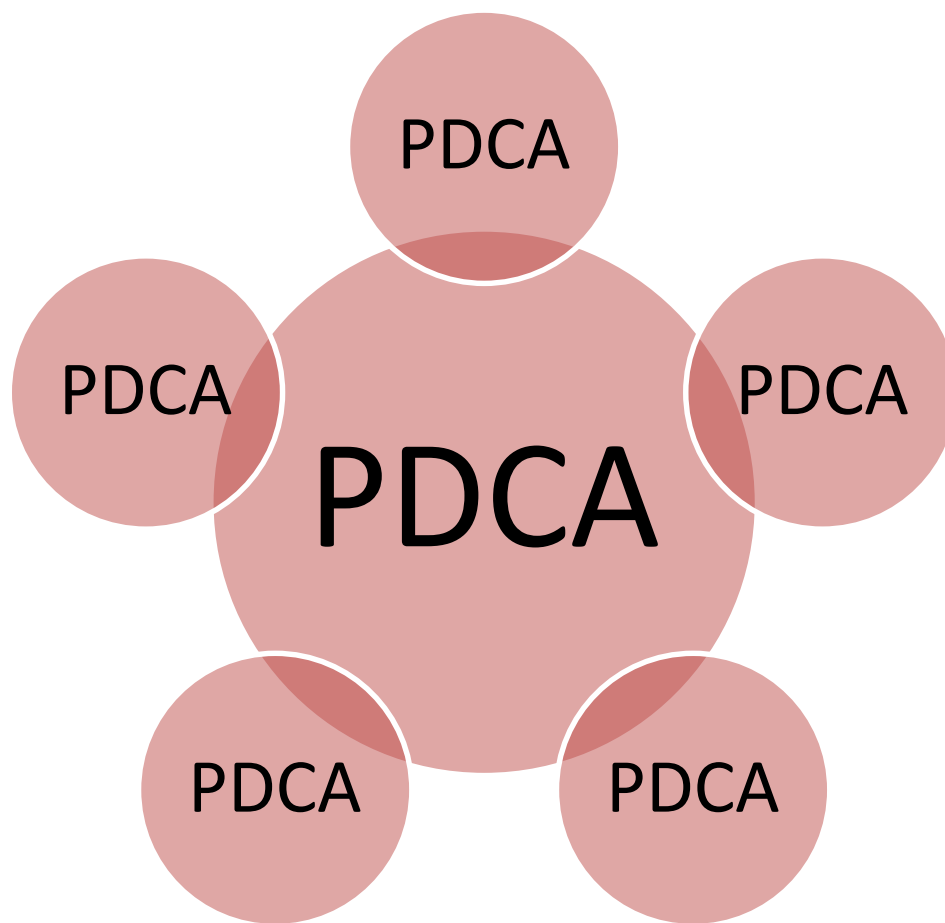


## **【その2】PDCAサイクルの確立**

**—教育課程を編成し、実施し、評価して改善をはかる—**

# 教育課程のPDCAサイクルの確立

—教育課程の編成と授業の改善—



# 教育課程の編成・実施・評価・改善

学校教育目標→教育課程の編成→各教科等の年間指導計画



授業の指導案の作成



授業の展開



授業の評価→単元の評価・改善→指導計画の評価・改善



教育課程の評価＝学校評価



改善への取り組み→

次期の目標・計画の作成

# 学校評価をマネジメントする

＜学校評価の営みは「カリキュラム・マネジメント」そのもの＞

◇学校教育目標を評価する

◇学校評価をめぐるスケジュールの見直し

- ・次年度の教育課程の検討と学校評価との関係
- ・年度の途中に実施する学校が現れる
- ・学期末、年度の間での学校評価⇒学校改善のための時間の確保
- ・学校評価のスケジュールの作成そのものが学校経営の工夫として問われる

# 学校教育目標を見直す

## 総則 第2 教育課程の編成

### 1. 各学校の教育目標と教育課程の編成

「教育課程の編成に当たっては、学校教育全体や各教科等における指導を通して育成を目指す資質・能力を踏まえつつ、各学校の教育目標を明確にするとともに、教育課程の編成についての基本的な方針が家庭や地域とも共有されるよう努めるものとする。」

# **【その3】人的・物的資源の活用 —「チーム学校」のもとに—**

# 学校のリソース

ヒト	モノ	カネ	情報	時間

# 経営資源の投入と活用

－ヒト・モノ・カネ・情報・時間－

○これからの時代に求められる資質・能力を育むためには、各教科等の内容と教育課程全体とを往還させるとともに、**人材や予算、時間、情報、教育内容といった必要な資源を再配分することが求められる。**

1. 「社会に開かれた教育課程」の実現という観点から経営資源の投入と活用を図る

2. 経営資源としての時間について、その配分と運用を通して、持続可能な教育課程の編成・実施・評価・改善を図る

3. 経営資源の見える化をはかる



## **IV. カリキュラム・マネジメントを始める**

# カリキュラム・マネジメントを〈見える化〉する

「社会に開かれた教育課程」の実現をめざす  
授業改善・学校改善

授業から、学級経営から、  
教育課程へのベクトルを生む

全ての参加による  
学校の特徴づくり

教科横断

PDCAサイクル  
の確立

経営資源の  
活用

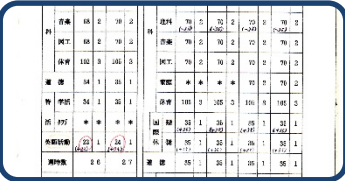
# カリキュラム・マネジメントを〈見える化〉する



## 学校教育目標

育成をめざす資質・能力 めざす児童生徒像

本年度の重点目標



科	1学期			2学期			3学期			4学期			5学期			6学期		
	単元	時間	単元	時間	単元	時間	単元	時間	単元	時間	単元	時間	単元	時間	単元	時間		
国語	10	2	10	2	10	2	10	2	10	2	10	2	10	2	10	2		
算数	10	2	10	2	10	2	10	2	10	2	10	2	10	2	10	2		
理科	10	2	10	2	10	2	10	2	10	2	10	2	10	2	10	2		
社会	10	2	10	2	10	2	10	2	10	2	10	2	10	2	10	2		
英語	10	2	10	2	10	2	10	2	10	2	10	2	10	2	10	2		
音楽	10	2	10	2	10	2	10	2	10	2	10	2	10	2	10	2		
体育	10	2	10	2	10	2	10	2	10	2	10	2	10	2	10	2		
美術	10	2	10	2	10	2	10	2	10	2	10	2	10	2	10	2		
総合	10	2	10	2	10	2	10	2	10	2	10	2	10	2	10	2		
合計	100	20	100	20	100	20	100	20	100	20	100	20	100	20	100	20		

## 教育課程

・各教科等の単元 ・年間指導計画 時間割 日課表 週時程 行事予定



## カリキュラム・マネジメント

・教科横断 ・PDCAサイクルの確立 ・経営資源の活用



## 学校のリソース

・ヒト ・モノ ・カネ ・情報 ・時間

# わが校の教育課程(カリキュラム)を 共通理解する

○教育課程とは、学校教育の目的や目標を達成するために、**総合的に組織した学校の教育計画**

○教育課程の構成要素

①**教育理念・目標**(教育目標、ビジョン、校訓、めざす学校像、育てたい児童・生徒像、育てたい学力、本年度の重点目標、等)

②**組織配列した教育内容**(各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動、年間指導計画、等)

③**配当した授業時数**(日課表、週時程、月間行事計画、年間行事計画、等)

④**教材・教具・施設・設備**

# 校内研修のテーマの設定・実施

○基礎学力の定着を図るためにカリキュラム・マネジメントを進める。

○子ども達に身に付けさせたい力を構造化し、カリキュラム・マネジメントにより育成をはかる。

○PDCAサイクルを活用して、学校全体で授業改善に取り組む体制を整える。

# カリキュラム・マネジメントに関する 学校支援研修プログラムの開発

- リーダークラスにとってのカリキュラム・マネジメント
- ミドルクラスにとってのカリキュラム・マネジメント
  - ・校長のビジョンとリーダーシップの下に育成する資質・能力を明確にしつつ、各教科等をつないでカリキュラムデザインができるミドルリーダーの育成
  - ・校内研修・研究からのアプローチ
- 若手クラスにとってのカリキュラム・マネジメント
  - ・授業と学級経営からのアプローチ

# 授業を核に

○ 学習指導要領の構造の見直し

- ・ 育成をめざす資質・能力を3つの柱に
- ・ それに沿って各教科等の目標を示す

○ これら情報の共有をもとに、授業を核にしたカリキュラム・マネジメントの展開を通して、資質・能力の育成をめざす。

# 参考文献

- ・天笠 茂『カリキュラムを基盤した学校経営』ぎょうせい 2013年9月
- ・天笠 茂(監修)『管理職課題解決実践シリーズ』全5巻 ぎょうせい 2015年3月
- ・天笠 茂『学校と専門家が協働するーカリキュラム開発への臨床的アプローチ』第一法規 2016年5月
- ・天笠 茂(編著)『平成29年改訂 小学校(中学校)教育課程実践講座 総則』ぎょうせい 2017年10月